

インド金融政策（2022年5月）

高インフレの長期化への懸念を強め、緊急利上げ

2022年5月6日

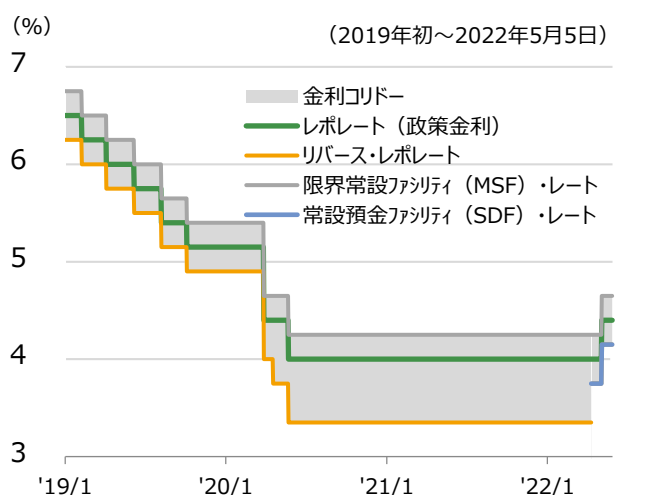
中銀の責務を果たせないリスクを抑制すべく、利上げ継続の見込み

5月2～4日（現地）、インド準備銀行（中央銀行）は臨時金融政策決定会合を開き、政策金利のレポレートを4.0%から4.4%へ引き上げ、コロナ禍以降の超緩和的な金融政策に終止符を打ちました。同時に、CRR（現金準備率）を4.0%から4.5%へ引き上げることも決定しました。4月の会合で緩やかな金融政策正常化の方針が示されたにも拘わらず、臨時会合で利上げを始めたことはサプライズをもたらしました。

サプライズ利上げの理由に関して、中銀は主に高インフレの長期化懸念を挙げました。4月の会合後、3月CPI（消費者物価指数）伸び率の予想を上回る加速や、中国でのサプライチェーンの混乱などの懸念材料が増え、中銀はインフレ期待の上昇や2次的な波及に対して警戒を強めました。また、中銀の責務が果たせないリスクも一因とみられます。中銀は、CPI伸び率が物価目標レンジの「 $4\pm 2\%$ 」を逸脱した場合、3四半期以内にレンジへ回帰させる責務を負っています。CPI伸び率は1月から6%を上回って推移し、加速傾向にあります。そのため、中銀にとってインフレ抑制は焦眉の急であり、今後は6月の定例会合でも利上げを継続するなど、コロナ禍前の政策金利の水準5.15%に向けて速やかに利上げを行うと見込みます。

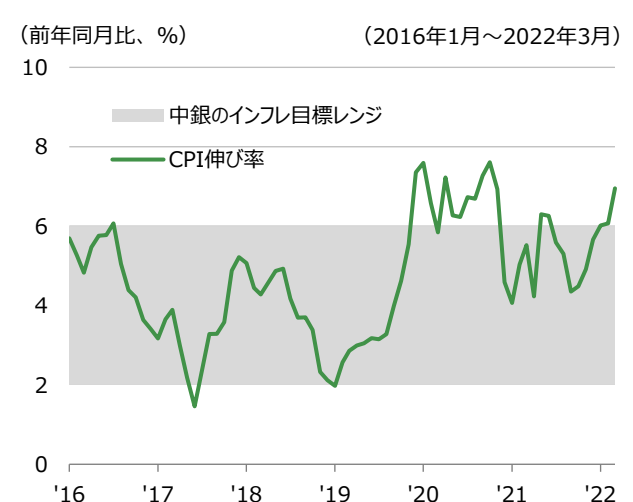
緊急利上げを受け、短期的に株式・債券市場ではセンチメントが悪化し、不安定な動きとなりそうです。但し、足元のインドの景気見通しが良好な中、実体経済の持続的な成長を支える物価安定を重視した金融政策は、徐々に市場に評価され、金融市場の下支え要因になる可能性があると考えます。

図表1 主要政策金利および金利コリドー



※金利コリドーとは、銀行間オーバーナイト金利の誘導目標レンジ。中銀が4月8日にコリドーの下限を変更。(出所) ブルームバーグ

図表2 消費者物価指数の伸び率



(出所) インド統計・計画実施省より大和アセット作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。